

ICIS 2019 in Munich ルポ

大串葉子（おおぐし ようこ）
椋山女学園大学

1. グーテンターク、ミュンヘン！

ものづくりが盛んで日本とよく比較されるドイツ。その南部に位置するミュンヘンはバイエルン州の州都であり、人口は約145万人で福岡市（151万人）と同じくらいの都市規模である [1]。

筆者は1991年春、ドイツ語の研修でミュンヘン大学に滞在し、近くの民家でホームステイも経験した。当時は日本経済が絶好調のバブル期だったこともあり、ミュンヘンの印象はパリッとりの効いた白いシーツのイメージそのもので質実剛健、安心感があったものの都市としての華やかさには欠けていたように記憶している。今回、約30年ぶりにその地に降り立ってみると、郊外の自然豊かな情景はそのままによく整備された機能的な都市に生まれ変わっていた。ICIS（The International Conference on Information Systems）の日程が2019年12月15日から18日であったこともあり、空港や街中がクリスマスマーケットとイルミネーションで美しく彩られていた（写真1）。



写真1 クリスマスマーケット

2. The JPAIS/JASMIN International Meeting

ICIS 初日の日曜日は、快晴で暖かく、最高の学会日和。午前中からドクトラル・セッションや各種のセミナー（ブロックチェーンやAIなどの最新知識について：有料）が精力的に実施されており、午後にはJPAIS（The Japan Association for Information Systems）が開催された。JPAISは、2008年から毎年ICIS 初日に開かれており、世界的なIS研究コミュニティに対して日本特有のIS現象に関する研究成果を発表するとともに、研究のグローバルスタンダードを確認する場となっている。今回は、埼玉大学の内木哲也教授（写真2）、本学会の会長で東京工業大学教授の妹尾大教授、そして筆者の3名が報告を行った（詳細は [2] を参照のこと）。日本での短時間での学会報告と違って一人1時間程度の割り当てがあり、論点や分析の内容、手法などをじっくりと討議することが叶った。専門分野の違いもあり、ユニークな視点から切り口をもらえるなど、非常に有意義な機会であった。



写真2 ICIS/JPAIS での発表（内木哲也教授、埼玉大学）

3. ICISの採択率ほどの程度？

初日の夕方には、ウェルカム・レセプションが開かれ、世界中からやってきた研究者たちが一堂に会する(写真3)。その場で研究の方向性が講評され、国別の参加者数や投稿数、採択率などの各種データも公表される。今年のICISへの投稿数は1,548(2018年は1,411)で、1,540の論文に対してレビューが実施された。内訳は、フルペーパーが835(2018年は820)でショートペーパーが705(2018年は569)であり、採択数は総計420(約27%)で、内訳はフルペーパーが229(27.4%)、ショートペーパーが191(27.1%)であった[3]。

採択率は決して低くはないが、ISの分野では最難関の学会である。欧米からの投稿数・採択数が多いのはもちろん、PACIS同様に各国の大学や大学院に所属する中国人の数に圧倒された。2015～2016年に筆者を香港大学に招聘してくれたPatrick Chau先生も浙江省の大学と兼務しており、中国が



写真3 ICIS2019の開幕(撮影は妹尾先生:本学会の会長)

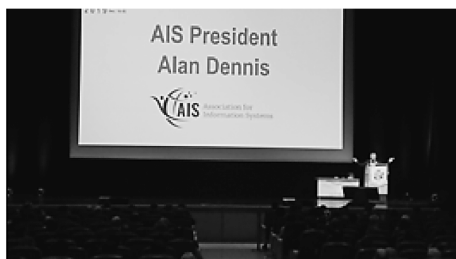


写真4 AIS会長挨拶

国内外で多くの研究者を育成していることに感嘆の念を禁じ得ない。

4. AISの新イメージングビデオに…

今年は会場がミュンヘンだったこともあり、基調講演は独SAPの創業者の一人で最高技術責任者(CIO)も務めたHasso Plattner博士が登場した。実は、この講演の前に驚きの出来事があった。AIS会長のAllan Dennis氏の挨拶があり(写真4)、新しいAISのイメージングビデオが流れた際、過去の学会参加風景の1コマに佐藤修先生(東京経済大学)のお姿を発見したのである。驚きのあまり、近くに座っておられた松下倫子先生(関東学院大学)と思わず顔を見合わせる。

ビデオの後に、満を持してPlattner博士の講演が始まった(写真5)。ビジネスの成長に準じてデータのサイズが増加する際にはデータベース容量の増加が必要であるが、SAPのHANAは独特の構造で拡張を可能にしている。その開発時の試行錯誤についてのお話が興味深かった。会場は満席で、講演中に多くのシャッターが切られ、熱気にあふれていた。

5. ひよんなことから…

翌日の目玉は16時30分からのパネル。Are design science, economics and behavioral science critical enough on AI? というタイトルの下、著名な研究者ら計6名が結集したのだが、なんといっても主役はRichard J. Boland教授(Case Western Reserve University)。高齢で体調が心配されたが、切れのある討議で会場を圧倒し、パネル後は写真を

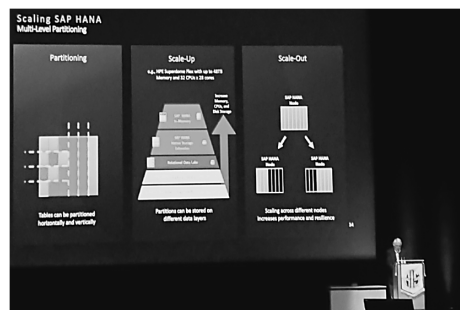


写真5 基調講演

撮りたいフロアが行列していた。行列のはけるころを見計らってご挨拶にいったところ、一緒にいた Jaehyun Park 先生（京都工芸繊維大学）が教え子ということもあり、「夕食を一緒に」ということになった。お陰で、公式イベントのレーベンブロイハウスでのソーシャルミーティングには行けなかったが、世界の大御所に現在の研究内容をお話してアドバイスをもらうという、思ってもみない貴重な機会に恵まれた。

6. 最後に

学会は出会いの場であり、議論を深めるにはもってこいの機会である。特に、ICIS は世界各国から研究者が集まるために、研究の幅が広くて層も厚い。しかも3～4日を共に過ごすために、長時間の議論も可能になる。

今回、ICIS に参加して知己を得たことで、温めていたプロジェクトが一気に進む手ごたえがあった。帰国後すぐに調査を実施し、現在3か国に散らばる研究仲間とともに入手したデータや分析内容を精査している。まさに「犬も歩けば棒に当たる」。今年はほとんどの学会がオンラインに切り替わるよ

うであるが、face 2 face の会合はやはり大事である。新型コロナが早期に収束し、また世界中の研究者と集える機会がくることを心より祈念している。

参考資料

- [1] ミュンヘンの人口：『南ドイツ』地球の歩き方 2019–2020, p. 168. 福岡市の人口：福岡市のホームページ (<https://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/jinkou/jinnkousokuhou.html>) 2020 年 4 月 20 日参照.
- [2] The JPAIS のホームページ (<https://sites.google.com/site/jpaisnet/activities/jpais2019/detailed>) 2020 年 4 月 21 日参照.
- [3] AIS (Association for Information systems) のホームページ (<https://aisel.aisnet.org/icis2019/>) 2020 年 4 月 21 日参照.

略歴

大串葉子（おおぐし ようこ）

1997 年英国マンチェスター大学大学院修了，2000 年九州大学大学院経済学研究院博士後期課程修了．博士（経済学，九州大学）．2001 年新潟大学経済学部准教授，2018 年椋山女学園大学教授（現在に至る）．